



秋田大学 大学間国際交流協定の締結について

2025年9月～2026年3月までに、秋田大学では新たに2大学との間で大学間国際交流協定を締結しました。これにより、本学の大学間協定校は、37の国・地域にわたる81の大学・機関となりました。

【学術交流協定・学生交換覚書】を締結
台湾 国立台北科技大学 締結日：2025/12/25

【学術交流協定】を締結
キーウ国立文化芸術大学 締結日：2025/9/30



第2回海外留学説明会

2025年12月26日（金）、オンラインにて「海外留学説明会」を開催しました。本学の留学制度や支援の説明後、座談会では、ボツワナで交換留学を終えた学生1名、ドイツ・ポーランドに留学中の学生2名がZoomで参加し、後輩学生に留学実現に向けた具体的な情報を提供しました。参加学生13名、協力学生3名が参加しました。

留学体験記

ボツワナ大学

国際資源学部 国際資源学科 資源政策コース 4年次 上野 藍子

私は、2025年7月から4か月間、ボツワナ大学へ留学を行いました。日本では経験し得ない「非日常」の連続だったこの期間は、私の価値観を大きく変えるものとなりました。

寮生活では、断水や停電が頻発しましたが、現地の学生と情報を共有し、事前の備えを徹底することで、不測の事態にも動じない柔軟な対応力が身につきました。学業面では、南部アフリカの政治や貧困問題について学ぶ授業と並行して、卒業論文のための現地調査も行いました。当初は知人が少ないため一筋縄ではいかない挑戦でしたが、自ら教授や友人に働きかけ、地道にネットワークを広げた結果、多くのインタビューを実現できました。この経験から困難に直面した時こそ一人で抱えず、周囲を信頼して発信する大切さを学びました。





休日には、欧米からきた交換留学生とサファリへ出かけ、セメターブレイクにはナミビアやジンバブエを巡るロードトリップを楽しみました。アフリカの圧倒的な大自然と多様な文化に触れた時間は、一生の思い出になりました。

この留学で得た、未知の環境に飛び込む「行動力」と、人との繋がりを糧にする「対話力」は、これからの社会人生活において大きな武器になると確信しています。アフリカという大地は、私にどんな困難も乗り越えていける自信を与えてくれました。

🗨️ メモリアル大学

教育文化学部 学校教育課程 特別支援教育コース 4年次 林 滉之介

私は現在カナダ・ニューファンドランドラブラドル州にあるメモリアル大学へ、8か月間の交換留学に来ています。秋学期はESL（英語集中プログラム）でアカデミック英語を学び、冬学期からは本学で特殊教育、インクルーシブ教育に関連した授業とビジネス・プロフェッショナルリズムを履修しています。教育学ではインクルーシブ教育や学習支援について学び、日本の特別支援教育との違いを実感しました。ビジネスの授業では、自己理解や対人関係、ビジネスシーンにおけるプロフェッショナルとしての姿勢を扱い、自分自身を見つめなおす貴重な機会になっています。

本学のキャンパスはとても広く、充実した施設や学習環境の規模に日々圧倒されています。また、多様な文化背景を持つ学生と日常的に交流できる環境が印象的でした。意見の違いを尊重しながら対話する姿勢は、教室の内外で強く感じます。



留学当初は英語力の不足を感じ、周囲と比べて思うように発言や会話ができなかったり、テストや課題で結果が残せなかったりと、悔しい思いをすることも多くありました。努力しても成果が出ないといったことが何度もありましたが、結果よりも「挑戦を続ける姿勢」を大切にし、一つ一つの課題に向き合ってきました。

私は未だ発展途上で、留学期間中の今も多くの課題が残っています。一つひとつの経験を糧にしながら、結果にとらわれず、自分らしい歩幅で、学び続けていきたいと思えます。

第三の故郷を見つける農家民泊2025

10月11日（土）～12日（日）、
「第三の故郷を見つける農家民泊2025」
を実施しました。

本事業は秋田地域留学生等交流推進会議
（事務局：秋田大学国際課）が主催し、
出身地と秋田県内での勉学の地に加え、
仙北市西木町を第三の故郷として感じて

ほしいという趣旨で、留学生と日本人学生が仙北市の農家で農作業と民泊体験をするイベントです。
秋田大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田工業高等専門学校から35名の学生が参加しました。



🗨️ 特別聴講学生

サリクエタ ラミレス ヤナラ ヘスス アンドレア Yanara Zarricueta Ramirez

The Farm Stay event was great from the beginning, especially when we had the chance to try soy sauce ice cream. Even though it sounded like a strange flavor, it was surprisingly really good!

One of the best experiences that I had during this event was visiting Lake Tazawa, where we were lucky to see six Akita Inu. They were very friendly, cute and lovely. With my group we take a lot of pictures of them and with them. We also fed the fishes in the lake — it was so fun to see them jumping for the food.

As for the host family, Fujieda-san was very kind and always attentive to us. She offered many delicious meals with a wide variety of new and different flavors. She also had an Akita Inu named Komachi, who was very cute but quite grumpy, so we couldn't touch her at all (笑).

🗨️ 国際資源学研究科 資源学専攻 スティーブン・F・クーパー2世 Stephen F. Cooper II

When I first heard about the Farmstay tour, I must admit I wasn't particularly thrilled. Having grown up around farming in Liberia and spent years immersed in agricultural life, I assumed the trip would be more of the same—routine, predictable, and perhaps even dull. I expected a few fields, some livestock, and the usual rhythms of rural life. What could possibly surprise me?

But as the tour unfolded, I found myself unexpectedly captivated. The experience offered far more than just farming—it was a window into the heart of Japanese family life. Staying with a local family, I witnessed the subtle beauty of their daily routines, the quiet discipline of their work, and the warmth with which they welcomed us. From the way meals were prepared to the shared responsibilities across household members, it felt like a sneak peek into a lifestyle that values harmony, simplicity, and deep connection to the land.

Looking back, the Farmstay tour was far more enriching than I had imagined. It reminded me that even familiar themes like farming can take on new meaning in a different cultural context. I left with a deeper appreciation for Japan's rural life and a quiet longing to return. If given the chance, I would gladly go on such a trip again—this time with open eyes and a heart ready to be surprised.

Many thanks to the organizers for such a brilliant way of introducing international students to the rural Japanese lifestyle. There could be no better way to do so!

国際交流イベント

マルチリンガル・カフェ（中国語）

2026年1月22日（木）、「マルチリンガル・カフェ（中国語カフェ）」を開催し、14名の学生が参加しました。外国人留学生と日本人学生がグループとなり、お互いの母語を教え合いながら学習する機会を提供しました。中国語初心者の学生にも興味を持って学べるよう、実践的な会話表現を取り入れ、グループワークを行いました。また、中国茶の試飲を交えながら、楽しく学び合う様子が見られました。



教育文化学部・地域文化学科 1年次 李天杭さん

中国語カフェに参加し、短い時間でしたがとても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。日本人の方や他国の方々と気軽に会話をしながら、中国語やお互いの文化について紹介し合える雰囲気がとても印象的でした。私はもともと人に教えることが好きなので、中国語の発音や簡単な表現を伝え、相手に「分かった」と言ってもらえたときは大きなやりがいを感じました。このような交流を通して人と人との距離が縮まることを実感しました。今後もぜひ参加し、多くの方と交流しながら異文化理解をさらに深めていきたいです。

こどもふれあいデー・お餅つき

令和7年12月6日（土）、教育文化学部附属幼稚園の遊戯室にて「こどもふれあいデー・お餅つき」が開催され、留学生15名、日本人学生5名を含む約90名が参加しました。本イベントは、日本の伝統文化である餅つきを体験し、交流を通じて相互の国際理解・異文化理解を深めることを目的として行われました。教育文化学部の学生による遊びコーナーが設置され、参加した留学生も日本人学生とともに工作等を楽しみました。

外国人留学生等スキー合宿

2025年1月25日（土）～26日（日）、ジュネス栗駒スキー場（東成瀬村）にてスキー合宿を行いました。留学生19名、日本人学生1名が参加し、地元インストラクターからスキー技術を学んだほか、地元の子どもたちとの雪遊びや餅つき、温泉体験等、雪国ならではの体験や地域交流を楽しみました。

日研生 デルガ アンナ

この2日間、素晴らしいスキー旅行を楽しみました。

初日はそりをしたり、雪合戦や雪だるま作り、

雪の天使作りをして遊び、夜は美味しい和食を楽しみました。

その後は友達と深夜までボードゲームで遊んで、

最高の時間を過ごせました。

特に印象的だったのは2日目の朝です。温泉で心身ともに

リフレッシュして一日を始め、初めてのスキーに挑戦しました。

最初は難しさに苦戦しましたが、経験豊富なコーチや国際部の

担当者の支えのおかげで、基礎を習得することができました。

時間はあっという間に過ぎ、昼食時には自分で餅作りを

試す機会がありました。その後、スキーの練習を続けました。

ガイドの方々に別れを告げ、旅は無事に終了しました。

親しい友人と絆を深め、新しい出会いにも恵まれたこの旅に、心から感謝しています。



令和7年度 秋田大学全学FD・SDワークショップを開催

令和7年9月9日（火）、「生成AI時代の大学教育と研究の現在地」をテーマに、令和7年度秋田大学全学FD・SDワークショップを開催しました。

今年度のワークショップは、急速に進化・広がりを見せる生成AIを日々の業務に生かすため、生成AIの基礎的な利用方法や注意点、効果的な活用方法を学ぶことを目標として開催され、当日は、大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 村上 正行教授、浦田 悠 准教授、長岡 徹郎助教を講師として迎えて体験型のワークショップを実施しました。

参加者からは「講義と実践が組み合わさっており、とても分かりやすかった」「事例が多く、わかりやすかった」等の意見が寄せられ、実りあるワークショップとなりました。当日の様子は、Boxにて学内教職員限定でオンデマンド公開しておりますのでご覧ください。

専任教員からひとこと（コラム）

ネイティブスピーカーとは？

高等教育グローバルセンター 教育開発部門長 濱田陽教授

語学を勉強してきて、ネイティブスピーカーという言葉聞いたことがあると思います。特に英語では、「ネイティブみたいな発音」「ネイティブみたいに話す」など、広告でもYouTubeでもよく目にします。しかしネイティブとは誰でしょう？日本語で考えると、日本語で育った人は皆日本語ネイティブですが、出身地によって方言もありますし、イントネーションも異なります。英語の発音においては日本語以上に多様性があり、一概にネイティブの発音といってもAmerican, British, Aussie, New Zealand等様々で、さらに英語を学ぶ人にとってはネイティブの発音にこだわるより「わかりやすさが大切だ」という見解が最近では一般的です。つまり、ネイティブが絶対という風にネイティブをひとくくりとして考えるのではなく、自分はどのような英語を話して聞けるようになりたいかを考えるとよいでしょう。

秋田大学 国際交流関連データ

■国際交流協定校数（2026年3月1日現在）

大学間協定（37か国・地域81大学等）

部局間協定（28か国・地域48学部等）

■留学生数（2025年10月1日現在）

学部生 128名

大学院生 95名

交換留学生・研究生等 42名

合計 265名



2025年9月～2026年3月 実施 高等教育グローバルセンター国際交流部門事業

時期	事業名
2025年9月26日（金）	後期 新留学生オリエンテーション
2025年10月3日（金）	令和7年度後期 秋田大学外国人留学生歓迎会
2025年10月11日（土）～10月12日（日）	第三の故郷を見つける農家民泊2025「農業体験ツアー」
2025年12月6日（土）	国際交流イベント「もちつき」
2025年12月26日（金）	第2回 海外留学説明会
2026年1月22日（木）	国際交流イベント 「マルチリンガル・カフェ～中国語カフェ～」
2026年1月24日（土）～1月25日（日）	2025年度 外国人留学生等スキー合宿
2026年2月10日（火）	後期 特別聴講学生 送別セレモニー

編集・発行：国立大学法人 秋田大学 高等教育グローバルセンター